

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 17 年 6 月 23 日 (2005.6.23)

【公開番号】特開 2000-143772 (P2000-143772A)

【公開日】平成 12 年 5 月 26 日 (2000.5.26)

【出願番号】特願 平 10-318756

【国際特許分類第 7 版】

C 08 G 59/24

C 08 G 59/42

C 08 L 33/14

【F I】

C 08 G 59/24

C 08 G 59/42

C 08 L 33/14

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 10 月 5 日 (2004.10.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

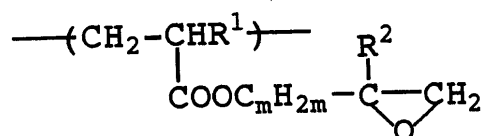
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(A) 下記式 (1)

【化 1】



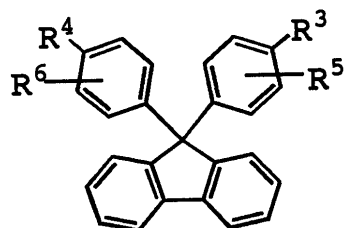
式中、 R^1 は、水素原子または炭素原子数 1 ~ 5 のアルキル基を示し、 R^2 は、水素原子、メチル基またはエチル基を示しそして m は 1 ~ 8 の整数を示す、

で表される構造単位を 30 モル % 以上含有してなる重合体または共重合体、

(B) 多価カルボン酸無水物および多価カルボン酸から選択される少なくとも 1 種の化合物並びに

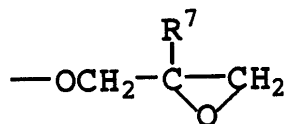
(C) 下記式 (2)

【化 2】



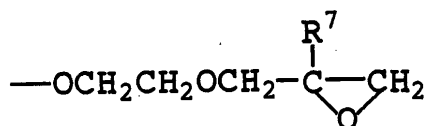
ここで、 R^3 と R^4 は、互いに独立に、下記式 (3)

【化 3】



ここで R^7 は水素原子、炭素数 1 ～ 5 の炭化水素基またはハロゲン原子である、
で表される基および下記式 (4)

【化 4】



ここで R^7 の定義は上記に同じである、
で表される基よりなる群から選ばれる基であり、そして R^5 および R^6 は、互いに独立に、
水素原子、炭素数 1 ～ 5 の炭化水素基またはハロゲン原子である、
で表される、エポキシ基を有する化合物、
を含有してなることを特徴とする硬化性組成物。

【請求項 2】

保護膜形成用である請求項 1 に記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の硬化性樹脂組成物の塗膜を基板上に形成し、次いで加熱処理すること
を特徴とする保護膜の形成方法。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の硬化性樹脂組成物から形成された保護膜。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、硬化性組成物および保護膜とその形成方法に関する。さらに詳しくは、光デ
バイス用保護膜形成材料として好適な熱硬化性組成物および保護膜とその形成方法に関す
る。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

本発明の目的は、上記の如き保護膜等に使用できる新規な硬化性組成物を提供すること
にある。

本発明の他の目的は、保護膜として従来から要求される諸特性、具体的には、密着性、
表面硬度、透明性、耐熱性、耐光性、耐薬品性、耐水性などを満たすと共に、下地基板で
あるカラーフィルターの段差を平坦化することが可能である光デバイス用保護膜形成材料
として好適な硬化性組成物を提供することにある。

本発明のさらに他の目的は、本発明の上記硬化性組成物から保護膜を形成する方法およ

び形成された該保護膜を提供することにある。

本発明のさらに他の目的および利点は以下の説明から明らかになるう。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

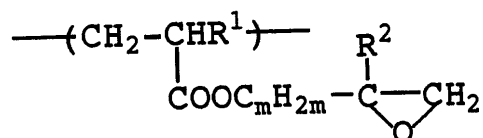
【補正の内容】

【0007】

【課題を解決するための手段】

本発明によれば、本発明の上記目的および利点は、(A)下記式(1)

【化5】

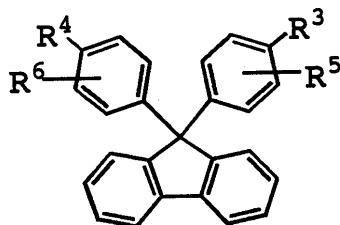


式中、 R^1 は、水素原子または炭素原子数1～5のアルキル基を示し、 R^2 は、水素原子、メチル基またはエチル基を示しそしてmは1～8の整数を示す、
で表される構造単位を30モル%以上含有してなる重合体または共重合体、

(B)多価カルボン酸無水物および多価カルボン酸から選択される少なくとも1種の化合物並びに

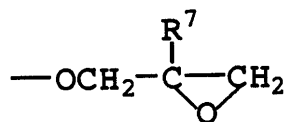
(C)下記式(2)

【化6】



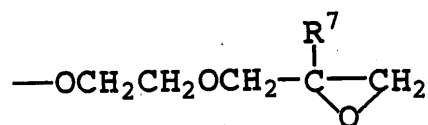
ここで、 R^3 と R^4 は、互いに独立に、下記式(3)

【化7】



ここで R^7 は水素原子、炭素数1～5の炭化水素基またはハロゲン原子である、
で表される基および下記式(4)

【化8】



ここで R^7 の定義は上記に同じである、

で表される基よりなる群から選ばれる基であり、そして R^5 および R^6 は、互いに独立に、水素原子、炭素数1～5の炭化水素基またはハロゲン原子である、
で表される、エポキシ基を有する化合物、
を含有してなることを特徴とする硬化性組成物によって達成される。

本発明によれば、本発明の上記目的および利点は、第2に、
本発明の硬化性樹脂組成物の塗膜を基板上に形成し次いで加熱処理することを特徴とする
保護膜の形成方法によって達成される。

本発明によれば、本発明の上記目的および利点は、第3に、
本発明の硬化性樹脂組成物が形成された保護膜によって達成される。

以下、本発明の硬化性組成物について詳細に説明する。